

第5回東北大学若手研究者アンサンブルワークショップに参加し研究成果を発表しました (2019/6/7)

テーマ：研究所若手アンサンブルプロジェクト

場 所：東北大学 材料科学高等研究所

URL：<http://web.tohoku.ac.jp/aric/news/events/20190607.html>

6月7日（金）に東北大学材料科学高等研究所で開催された「第5回東北大学若手研究者アンサンブルワークショップ」において、当研究所に所属する研究者7名が参加し、研究発表を行いました。当該ワークショップは、部局や分野の違いを越えた新しい研究グループの誕生や、研究に新たな展開を加える機会の提供等を主な目的としています。

研究所若手アンサンブルプロジェクトについては、当研究所から委員として佐々木大輔助教（情報管理・社会連携部門）が参加しており、また所内にもワーキンググループが設置されています。当研究所では引き続き、研究所間の連携を深化させ、文理融合の学際研究を推進するべく、研究所若手アンサンブルプロジェクトに積極的に参加していきます。

【当研究所所属研究者による研究発表】（プログラム順）

佐々木 大輔 助教（情報管理・社会連携部門）：《昨年度グラント（第1ステージ）採択課題》

防災投資便益を加味した際のログンダム（Rogun dam）に係る費用便益分析等

水谷 大二郎 助教（人間・社会対応研究部門）：

インフラ廃棄問題と需要制御効果

奥山 純子 助教（災害医学研究部門）：

被災後ケアのための小冊子を対象とした質的検討

門廻 充侍 助教（災害リスク研究部門）：

東日本大震災における宮城県での死因分類

山口 裕矢 助手（地域・都市再生研究部門）：

土砂災害を対象とした3次元数値シミュレーション手法の開発

川田 佳史 助教（災害理学研究部門）：

動く地学教材を作る～地震学編

橋本 雅和 助教（災害リスク研究部門）：

広域豪雨災害をいかにモニタリングできるか？

小野 裕一 教授（情報管理・社会連携部門）：《佐々木大輔助教が代理で発表》

世界防災フォーラムの取り組みについて

文責：佐々木大輔（情報管理・社会連携部門）

（次頁へつづく）

